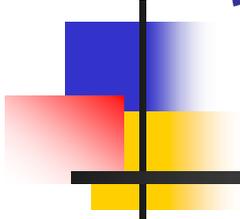
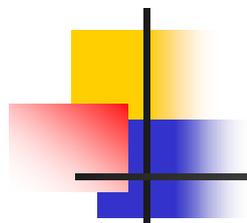


JAバンク富山における 地域密着型金融の取組状況について (平成22年度)

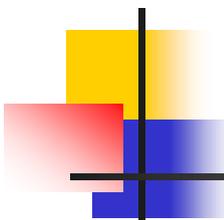


平成23年 9月
農林中央金庫 富山支店



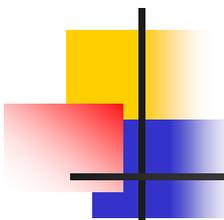
JAバンク富山（富山県下17 JAと農林中央金庫富山支店）では、農業と地域社会に貢献するため、平成22～24年度 JAバンク富山中期戦略に基づき、地域密着型金融の推進に取り組んでおります。

平成22年度の地域密着型金融の取組状況について取りまとめましたので、ご報告いたします。



目次

- 1 農山漁村等地域の活性化のための融資を始めとする支援（JAバンク富山の農業メインバンク機能強化への取組み）
… P.4
- 2 担い手の経営のライフサイクルに応じた支援 … P.13
- 3 経営の将来性を見極める融資手法を始め、担い手に適した資金供給手法の提供 … P.16
- 4 農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等地域育成への貢献 … P.19
- 5 地域密着型金融の取組事例 … P.28



1 農山漁村等地域の活性化のための融資を 始めとする支援

(JAバンク富山の農業メインバンク機能強化
への取組み)

農業融資の円滑な取組み

- JAバンク富山は、各種プロパー農業資金に対応するとともに、農業近代化資金や日本政策金融公庫資金の取扱いを通じて、農業者の農業経営と生活をサポートしています。
- 平成23年3月末時点のJAバンク富山の農業関係資金^(注1)残高は129億33百万円（うち農業経営向け貸付金115億11百万円）、日本政策金融公庫等の受託貸付金^(注2)残高は30億19百万円を取扱っています。

(注1) 農業者および農業関連団体等に対する貸出金であり、農業生産・農業経営に必要な資金や、農産物の生産・加工・流通に関係する事業に必要な資金等が該当します。

(注2) JAバンク富山が農業者の窓口となり、日本政策金融公庫などの貸付金の受託取扱いを行っています。受託貸付金残高には、JA転貸分を含みます。

【営農類型別農業資金残高】

(単位:百万円)

営農類型	平成23年3月末
農業	11,511
穀作	3,876
野菜・園芸	129
果樹・樹園農業	85
工芸作物	-
養豚・肉牛・酪農	466
養鶏・鶏卵	482
養蚕	-
その他農業	6,471
農業関連団体等	1,421
合計	12,933

〔注1〕農業関係の貸出金とは、農業者、農業法人および農業関連団体等に対する農業生産・農業経営に必要な資金や、農産物の生産・加工・流通に係る事業に必要な資金等が該当します。

〔注2〕「その他農業」には、複合経営で主たる業種が明確に位置づけられない者、農業サービス業、農業所得が従となる農業者等が含まれています。

〔注3〕「農業関連団体等」には、JAや全農とその子会社等が含まれています。

【資金種類別農業資金残高】

(単位:百万円)

種 類	平成23年3月末
プロパー農業資金	7,746
農業制度資金	5,187
農業近代化資金	3,423
その他制度資金	1,763
合 計	12,933

(注1) プロパー農業資金とは、JAバンク富山原資の資金を融資しているもののうち、制度資金以外のものをいいます。

(注2) 農業制度資金には、地方公共団体が直接的または間接的に融資するもの、地方公共団体が利子補給等を行うことでJAバンク富山が低利で融資するもの、日本政策金融公庫が直接的または間接的に融資するものがあり、ここでは および の転貸資金と を対象としています。

(注3) その他制度資金には、農業経営改善促進資金(スーパーS資金)や農業経営負担軽減支援資金などが該当します。

【農業資金の受託貸付金残高】

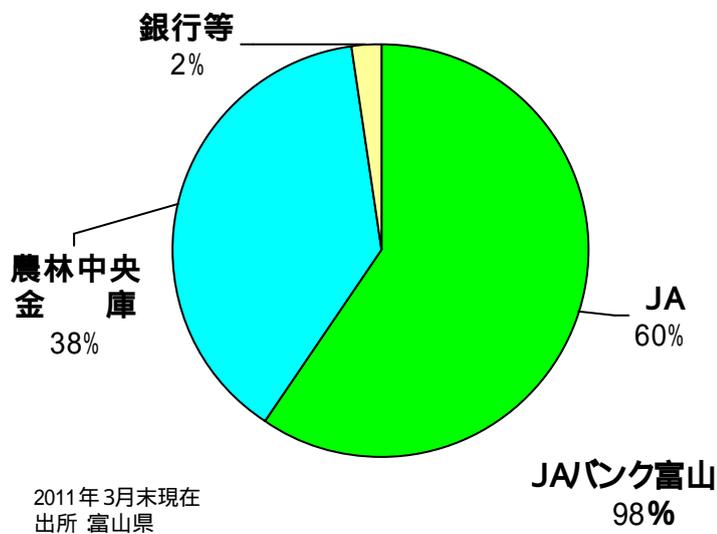
(単位:百万円)

種 類	平成23年3月末
日本政策金融公庫資金	3,019
その他	0
合 計	3,019

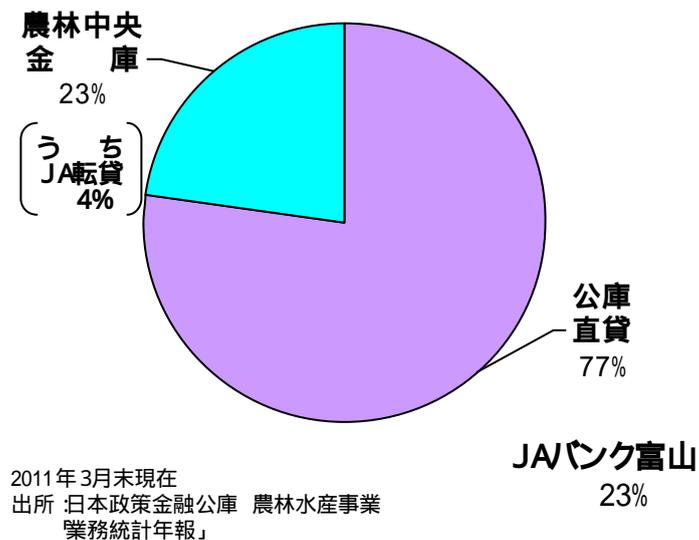
(注) JAバンク富山では、主にJAを窓口として、日本政策金融公庫資金等の受託貸付金を取扱っています。

JABank富山は、主要な農業関係の制度資金である、農業近代化資金や日本政策金融公庫農業資金（公庫直貸除く）の取扱いにおいてトップシェアとなっています。

農業近代化資金 融資残高のシェア



日本政策金融公庫 農業資金取扱残高のシェア



担い手のニーズに応えるための体制整備

- JAバンク富山では、地域の農業者との関係を強化・振興するための体制整備に取り組んでいます。
- JAでは、農業融資担当者が農業融資に関するご相談をお受けしています。また、県内JAには31人の「担い手金融リーダー」が設置され、農業融資担当者の活動をサポートしています。
- 農林中央金庫富山支店では、JAサポート指導機能、農業法人等への融資相談機能を担う「県域農業金融センター機能」を構築し、これらの機能の拡充、強化を実施しています。

JA内事業間連携の強化

- JAバンク富山では、農業者の多様なニーズにJAをあげて応えていくため、これまで以上にJA内事業間連携の強化に取り組んでいます。

具体的取組事例

JAのTAC(担い手に出向くJA担当者)や営農・経済事業職員を対象とした研修会において、農業資金に関する知識を習得するための研修を実施いたしました。

経済事業と信用事業の連携強化の一環として、富山県JAグループ・全国農業協同組合連合会富山県本部が主催する「農機フェア」(農業機械総合大展示会)においてJAバンク農業融資相談コーナーを設置し、来場者等からの農業資金相談に対応いたしました。



6次産業化に向けた農商工連携の推進

- JAバンク富山では、富山県農業協同組合中央会、全国農業協同組合連合会富山県本部などと連携し、生産者・JA等と流通業者、外食業者および加工業者等との商談会の開催など、農業6次産業化に向けた農商工連携に取り組んでいます。

【平成22年度 商談会開催状況】

商談会名	開催日	参加団体数	内容
北陸商談会	平成22年 10月27日	・セラー 39社 (団体) ・バイヤー 13社	主に北陸3県の農業生産者・JA・JF(漁協)グループ等をセラー側に、首都圏・東海・関西地区を中心に地元企業も含めた様々な業態の方をバイヤーとして事前マッチング形式を基本とした出会いの場を提供いたしました。

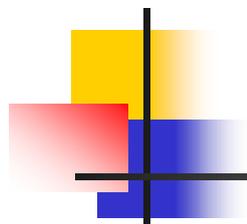


生産者と消費者をつなげる場の設置

- JAでは、生産者と消費者をつなげる交流イベントが開催され、好評を博しています。

【イベント等開催状況】

イベント名	JA名	開催日(年月日)	内容
入善 朝日うまいもん 勢ぞろい市	みな穂	平成22年 7月31日	富山市において、入善町・朝日町の特色を生かした農産加工品や特産物をPR。
ふるさと体験ツアー	いなば	平成22年 5月22日～23日 平成22年 9月25日～26日	生活協同組合おおさかパルコープの組合員との農業体験交流(田植・稲刈り、サツマイモ苗植・収穫)。



2 担い手の経営のライフサイクルに応じた 支援

新規就農者の支援

- JAバンク富山では、新規就農者の経営と生活をサポートするため、就農支援資金を取扱っています。

【平成22年度 新規就農者をサポートする資金の実績】 (単位:件,百万円)

資金名	実行件数	実行金額	平成23年3月末残高
就農支援資金(就農施設等資金)	2	4	6

(注1)就農支援資金(就農施設等資金)とは、就農計画の認定を富山県から受けた認定就農者に対して、JA等が融資機関となって無利子資金を貸付ける制度資金です。

(注2)実行件数及び実行金額はJAの事業年度で集計しています。

- 平成22年度から、JAバンクアグリサポート事業の一環として、**新規就農応援事業**を創設し、新規就農希望者(研修生)の育成を行う農家等に対して費用助成をしています。平成22年度は、3件24万円の費用助成をいたしました。

経営不振農業者の経営改善支援

- JAバンク富山では、農業者の経営再建に向け経営改善支援に取り組んでいます。

【平成22年度 農業者の経営改善支援等の取組実績】

(単位: 先数, %)

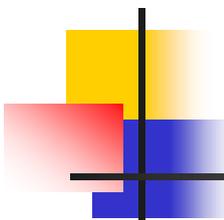
	期初経営改善支援取組先 A	Aのうち期中に再生計画を策定した先数 a	Aのうち期末に債務者区分がランクアップした先数 b	Aのうち期末に債務者区分が変化しなかった先数 c	再生計画策定率	ランクアップ率
					= a / A	= b / A
正常先	1	0	0	1	- %	- %
要注意先	8	0	0	8	- %	- %
破綻懸念先	4	0	0	4	- %	- %
実質破綻先	3	0	0	3	- %	- %
破綻先	0	0	0	0	- %	- %
合計	16	0	0	16	- %	- %

(注1) 農業所得が主となる農業者を対象として、JAの事業年度で集計しています。

(注2) 経営改善支援取組先とは、JAが条件緩和や再生計画の策定など経営改善支援に取り組んでいる先をいいます。

(注3) 期末に債務者区分がランクアップした先とは、期末の債務者区分が期初よりランクアップした先をいいます。

(注4) 期末に債務者区分が変化しなかった先とは、期末の債務者区分が期初と変化しなかった先をいいます。



3 経営の将来性を見極める融資手法を始め、 担い手に適した資金供給手法の提供

負債整理資金による経営支援

- JAバンク富山では、農業者の債務償還負担を軽減し、経営再建を支援するため、負債整理資金を取扱っています。

【平成22年度 負債整理資金貸出実績】

(単位:件,百万円)

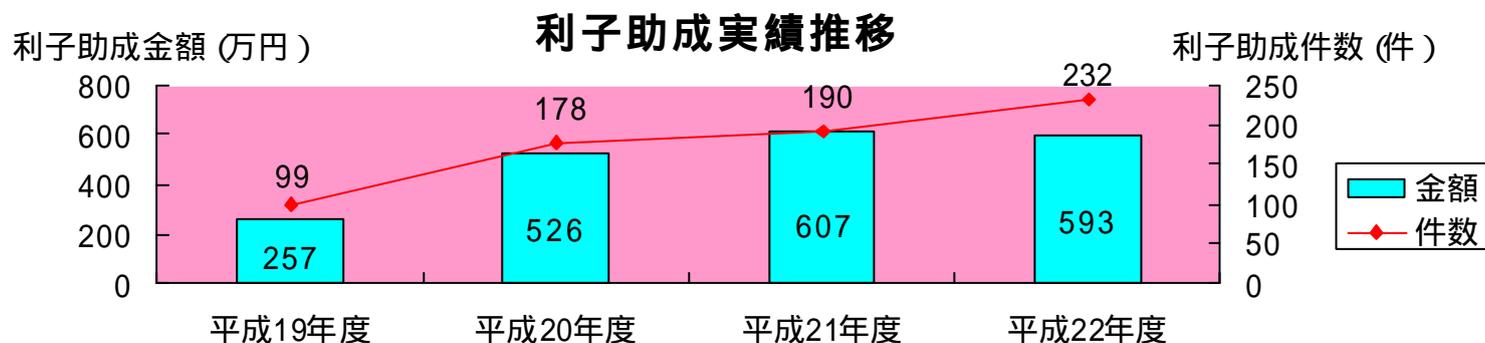
資金名	実行件数	実行金額	平成23年3月末残高
農業経営負担軽減支援資金	1	18	41
畜産特別資金	0	0	12
合計	1	18	54

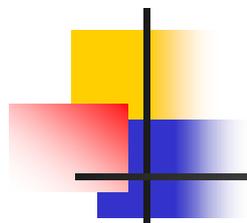
(注1)農業経営負担軽減支援資金は、営農に必要な資金を借り受けたために生じた負債の借換えのための制度資金であり、JAなどの融資機関において取扱っています。

(注2)畜産特別資金は、過去の負債の償還が困難な畜産経営者に対する長期・低利の借換資金であり、JAなどの融資機関において取扱っています。

農業融資への利子助成の実施

- 農業者に対するアグリマイティーマネージメント資金ならびにアグリエース資金の融資のうち一定の要件を満たすものおよび農業経営改善促進資金（スーパーS資金）の融資について、農業振興等に貢献するために創設されたJAバンクアグリ・エコサポート基金が最大1%の利子助成を行い、農業担い手をサポートしました。
- 平成22年度は県内13JAで、232件、約6百万円の利子助成を行いました。（平成19年度からの4ヵ年累計実績は、延べ699件、約20百万円。）





4 農山漁村等地域の情報集積を活用した 持続可能な農山漁村等地域育成への 貢献

農業経営の維持安定への支援

- JAバンク富山では、平成22年産米の価格下落等に対し、米生産農家を支援するための緊急対策として、JAから融資を受ける農業資金のうち一定の要件をみたす資金について、最大0.5%の利子助成を行うことにより借入負担の軽減策を図ることといたしました。
- 県内12 JAで、394件、1百万円の利子助成を行いました。

- JAでは、平成22年産米の価格下落、夏の猛暑等による米の品質低下、助成制度変更による交付金の交付時期変更の影響等により、資金繰りの悪化が懸念される農業者に対し、農業再生産に必要な運転資金を創設し農業者の経営安定に取り組みました。

【取組事例】

JA名	資金名
みな穂	平成22年度緊急農業経営安定対策資金
魚津市	平成22年産米特別対策資金
高岡市	戸別所得補償交付金つなぎ資金
となみ野	平成22年度緊急農業経営対策資金
いなば	農業経営緊急支援資金

JAバンク食農教育応援事業の展開

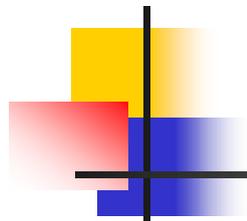
- JAバンク富山は、地域の小学生の農業に対する理解を促進するため、**JAバンク食農教育応援事業**を展開し、農業に関する教材「農業とわたしたちの暮らし」の配布や農業体験学習の受入れなどに取組んでいます。
- 教材「農業とわたしたちの暮らし」は、JAを通じて、平成22年度には県内の全ての国公立小学校199校へ、約11,800セットが配布され、学校の授業等において活用されています。



- また, JA等では, 地域貢献活動や食農教育などの実践活動に取り組んでいます。

【地域貢献活動内容】

JA名	活動主体	活動名	活動内容
みな穂	JA青壮年部	ウィラブリバー活動	地域環境保全活動および安全・安心な農作物提供の一環として, JA管内を流れる黒部川, 小川を清掃。
氷見市	JA	スポーツ振興のための寄付	JA氷見市で販売している「氷見はとむぎ茶」(ペットボトル)販売1本につき5円を氷見市のスポーツ振興のために寄付。 (平成22年度は1,000万円を寄付。)
いなば	JA	スポーツ振興のための寄付	JAいなばで販売している「越中はとむぎ茶」(ペットボトル)販売代金の一部を小矢部市, 高岡市のスポーツ振興のために寄付。



【食農教育活動内容】

JA名	活動主体	活動名	活動内容
みな穂	JA	学童農園春作業	田植え作業体験
		学童農園収穫作業	刈取り作業体験
黒部	JA青壮年部	小学校農業体験学習	農作業体験
	JA女性部	地元食材を使った料理教室	地元食材を利用した料理体験
		農業体験学習活動	農作物 (バケツ稲作,大豆,菜の花)栽培・収穫体験と加工・料理体験
魚津市	JA	学校田稲作体験教室	稲作体験,収穫 料理体験
		リンゴ体験教室	特産物である加積りんごの花摘みから収穫までの体験
		稲作アート体験教室	古代米を利用した稲作アート体験,収穫体験
		学校田稲作体験教室	稲作体験,収穫物を使ったジャンボ海苔巻き寿司作り体験
		バケツ稲作り教室	バケツ稲作り体験
		学校田稲作体験教室	稲作体験,わら細工の制作,収穫物を使った餅つき体験

JA名	活動主体	活動名	活動内容
アルプス	JA女性部	親と子のつどい	地元食材を使用した親子料理教室 (飾り巻き寿司作り)と施設見学
あおば	JA青壮年部	子供たちと田んぼであそぼ!	田んぼでの農業機械試乗等
		バケツ稲を育てよう	バケツ稲作り体験
	JA女性部	親子体験教室	収穫体験と地元食材を使用した手巻き寿司作り体験
富山市	JA青年部	バケツ稲づくり推進	バケツ稲作り体験
		ヒマワリによる環境美化	休耕田へのヒマワリ栽培による環境美化
なのはな	JA青年部	バケツ稲づくり	バケツ稲作り体験
	JA女性部	子供農業教室	農業施設見学、地元食材を使用した寿司作り
		親子農業スクール	農業施設見学、農作業体験、収穫物を使用した料理体験
		親子おせち料理づくり教室	地元農産物を使用したおせち料理作り
	JA	子ども農業スクール	稲作体験、野菜 (さつまいも・里芋)の植付・収穫体験
山田村	JA青年部	バケツ稲づくり	バケツ稲作り体験

JA名	活動主体	活動名	活動内容
いみず野	JA	バケツ稲づくり	バケツ稲作り体験
		JA夏休み子供農業教室	農業関係施設見学等
		子供料理教室	地元食材を利用した料理体験
	JA青年部	チャレンジ農業	農業体験 (田植・刈取)
	JA女性部	ちゃぐりん大会	食農にかかる母と子の集い
		親子食育映写会	食農にかかる映画鑑賞
高岡市	JA	バケツ稲づくり教室	バケツ稲作り体験
		食農伝承運動	農業体験 (栽培・収穫・交流)
		わくわくキッズひろば	農業体験・料理体験・食農学習
		夏休み子ども村	農業体験、収穫物を使用した料理体験、わらを使った工作等
		米ニューテーション田	農業体験 (田植・刈取) 地元食材を使用したジャンボ巻き寿司作り
	小学校への協賛金	学校農園	農業体験 (栽培・収穫)
氷見市	JA	プランターハトムギ作り	ハトムギ栽培を通じた農業体験・加工体験

JA名	活動主体	活動名	活動内容
となみ野	JA	稲作体験スクール	稲作体験
		地産地消推進事業	地元産100%の給食の実施
		となみ野農産物PR事業	食育フォーラムの開催
なんと	JA	野菜づくり体験	野菜の栽培体験
		大豆栽培と味噌作り体験	大豆栽培体験、収穫物を使用した味噌作り体験
	小学校への協賛金	学校農園野菜づくり体験	野菜の栽培体験
		とちもちづくり体験	農業体験(田植・刈取)、収穫物を使用したとちもち作り体験
		あかそふ活動	野菜づくり体験
	JA青壮年部	ふれあい野菜収穫体験	野菜の栽培体験
		食育・食農を考える	食と農を考える講演会の開催
いなば	JA女性部	親子料理教室(4回)	地元食材を使用した親子での料理体験
福光	JA	キッズクラブ	農作業体験、収穫物を使用した料理体験

5.地域密着型金融の取組事例

JAおよびJAバンク富山では、農業と地域社会に貢献し活性化するための取組みが行われています。以下にその一部をご紹介します。

事例1 行政との連携による農業施策の取組(平成22年度緊急農業経営安定対策資金の創設)

JA名 みな穂農協

<p>1 動機 (経緯)</p>	<p>平成22年産米にかかる米概算金の下落及び夏の猛暑等による米の著しい品質低下(管内の「コシヒカリ」の1等米比率は、平成21年度は約98%でしたが、平成22年度は約30%に急落)の影響により、資金繰りの悪化が懸念される農業者に対して、管内の行政(入善町および朝日町)と連携して、行政およびJAの利子助成措置により実質無利子の融資枠を設定し農業者の経営安定に取組みました。</p>
<p>2 概要</p>	<p>取扱期間は、平成22年11月15日から平成23年3月31日まで 対象者は、平成22年産米にかかる米概算金の下落および米の品質低下により資金繰りに影響を受ける農業者・農業生産法人・団体等で、農業経営を安定させるための運転資金を必要とされる方(ただし、当JAの営農指導部門の指導を受けて農業経営の安定を目指す意思がある方) 資金用途は、平成22年産米にかかる米概算金の下落および米の品質低下により資金繰り上必要となる資金 融資金額は、平成22年度水稲作付面積10a当たり2.5万円を基準とし、以下の金額が上限 ・個人農業者 200万円 ・農業生産法人、団体 500万円 融資期間は1年間とし期日一括償還 貸出金利は短期プライムレートを基準に、行政および当JAからの利子助成措置により実質無利子 ・利子助成率 行政 1.2% (入善町、朝日町) JA 0.275% (富山県農業信用基金協会の保証を付するため、別途、0.8%の保証料が必要となります。)</p>
<p>3 成果 (効果)</p>	<p>行政に働きかけ、支援協力を取り付けたことにより実質無利子資金対応が実現できました。 ご利用いただいた方からは好評をいただきました。</p>
<p>4 今後の 予定(課題)</p>	<p>資金の円滑な償還促進に努めます。 農業経営に影響を及ぼす事態が発生した場合は、引き続き行政と連携して農業者の経営安定化に取組みます。</p>

事例 2 農業融資商品の適切な提供・開発 (平成 22 年産米価格下落に対する資金繰り支援の取組み)

JA名 魚津市農協

1 動機 (経緯)	平成 22 年産米にかかる米価下落及び夏の猛暑等による米の品質低下の影響により、資金繰りの悪化が懸念される農業者に対して、農業再生産に必要な運転資金「平成 22 年産米特別対策資金」を創設し農業者の経営安定に取組みました。
2 概要	<p>取扱期間は、平成 22 年 10 月 25 日から平成 23 年 3 月 31 日まで</p> <p>対象者は、稲作生産を営むまたは従事する組合員・農業生産法人・団体等で一定の要件を満たす方</p> <p>資金用途は、稲作生産に直結する運転資金</p> <p>融資金額は、平成 22 年度水稲作付面積 10 a 当たり 2.5 万円を基準とし、500 万円が上限</p> <p>融資期間は 1 年以内とし期日一括償還</p> <p>貸出金利は 1.25%</p> <p>原則として担保設定は不要ですが、融資金額 300 万円未満は 1 名以上、300 万円以上は 2 名以上の保証人が必要</p>
3 成果 (効果)	<p>ご利用いただいた方からは好評をいただきました。</p> <p>農業者の経営安定化につながりました。</p>
4 今後の 予定(課題)	<p>資金の円滑な償還促進に努めます。</p> <p>農業経営に影響を及ぼす事態が発生した場合は、引き続き農業者の経営安定化に取組みます。</p>

事例3 農業融資商品の適切な提供・開発（戸別所得補償モデル事業実施に伴う資金繰り支援の取組み）

JA名 高岡市農協

1 動機 (経緯)	平成 22 年産米にかかる戸別所得補償モデル対策事業交付金が交付されるまでの間、資金繰りの悪化が懸念される農業者に対して、資金繰りのためのつなぎ資金「戸別所得補償交付金つなぎ資金」を創設し農業者の経営安定に取組みました。
2 概要	<p>取扱期間は、平成 22 年 11 月 5 日から戸別所得補償モデル対策事業交付金振込日（定額部分）まで</p> <p>対象者は、組合員の方で当 JA 貯金口座を戸別所得補償モデル対策事業交付金口座に申し込まれている戸別所得補償モデル対策事業加入申請者の方</p> <p>融資金額は、戸別所得補償モデル対策事業交付申請書及び交付対象面積通知書において確認された定額の交付金額が上限</p> <p>融資期間は平成 22 年 12 月 30 日まで。ただし、戸別所得補償モデル対策事業交付金振込日（定額部分）に期日一括償還</p> <p>貸出金利は 0.34%</p> <p>原則として無担保・無保証（任意団体については、代表者を連帯債務者に設定）</p>
3 成果 (効果)	低金利に設定し、農業者の金利負担軽減を図りました。
4 今後の 予定(課題)	農業経営に影響を及ぼす事態が発生した場合は、迅速に対応策を検討・実施し引き続き農業者の経営安定化に取り組めます。

事例4 農業融資商品の適切な提供・開発（平成22年産米価格下落に対する資金繰り支援の取組み）

JA名 となみ野農協

1 動機 (経緯)	平成22年産米にかかる米価下落及び夏の猛暑等による米の品質低下による減収により、資金繰りの悪化が懸念される農業者に対して、農業再生産に必要な運転資金「平成22年度緊急農業経営対策資金」を創設し農業者の経営安定に取組みました。
2 概要	<p>取扱期間は、平成22年11月15日から平成23年6月30日まで</p> <p>対象者は、組合員でJAとなみ野管内の水稻経営を主とする農業者（個人・法人）または集落営農組織の方</p> <p>資金使途は、農業経営に必要な運転資金</p> <p>融資金額は、前年売上額（農業粗収入額）の1/2以内とし、500万円が上限</p> <p>融資期間は3年以内とし、返済方法は元金均等償還・元利金均等償還・期日一括償還のいずれか</p> <p>貸出金利は0.90%</p> <p>個人経営の方は事業後継者または家族内従事者の方、法人の場合は代表者の方を連帯保証人に、集落営農組織の場合は代表者の方を連帯債務者に設定（必要に応じて担保を設定）</p>
3 成果 (効果)	<p>ご利用いただいた方からは好評をいただきました。</p> <p>農業者の経営安定化につながりました。</p>
4 今後の 予定(課題)	<p>資金の円滑な償還促進に努めます。</p> <p>農業経営に影響を及ぼす事態が発生した場合は、引き続き農業者の経営安定化に取組みます。</p>

事例 5 農業融資商品の適切な提供・開発（米価下落等による減収に対する資金繰り支援の取組み）

JA名 いなば農協

<p>1 動機 (経緯)</p>	<p>米価の下落や異常気象による米の品質低下,収穫量の減収により,資金繰りに支障を来す恐れが生じる農業者の方に対し,農業再生産に必要な運転資金「農業経営緊急支援資金」を創設し農業者の経営安定に取組みました。</p>
<p>2 概要</p>	<p>取扱期間は,JA管内において,米価の下落や異常気象による米の品質低下,収穫量の減収によって農業者の資金繰りに支障を来す恐れがあると認められる場合に,JA組合長が発動した日から一定の期間 対象者は,JA管内に住所を有する個人 組合員の方および組合員が主たる構成員または出資者となっている団体 資金用途は,農業経営に必要な運転資金 融資金額は,当年度の水稲耕作面積 10 aあたり2万円を基準とし,500万円が上限 融資期間は1年以内とし,返済方法は農業者戸別所得補償制度交付金等が入金された時に交付金等により一括償還 貸出金利はJA組合長が発動した日の直近10年利付国債の表面利率を基準に定め,1.00%が下限 個人の方は1名,法人の場合は役員の方を連帯保証人に,任意団体の場合は代表者を含む構成農家の全部または一部の方を連帯債務者に設定(必要に応じて担保を設定)</p>
<p>3 成果 (効果)</p>	<p>融資手続きが簡単であり,ご利用いただいた方からは好評をいただきました。 低金利に設定し,農業者の金利負担軽減を図りました。</p>
<p>4 今後の 予定(課題)</p>	<p>資金の円滑な償還促進に努めます。 農業経営に影響を及ぼす事態が発生した場合は,引き続き農業者の経営安定化に取組みます。 運転資金を必要とする農業者のニーズに応えた当座貸越資金を提案し農業者の資金繰りの円滑化を図ります。</p>

事例 6 農林水・商工連携にかかる商談会等開催（北陸商談会の開催）

JA名 JAバンク富山

<p>1 動機 (経緯)</p>	<p>JAグループでは農業生産額と農業所得の増大に向けて、地産地消、農商工連携等の実践により、生産から流通・販売を通じた戦略をグループ一体となって構築することとしています。</p> <p>JA・農業生産者等の販売力強化ニーズや地域の農産物、加工品等のブランド強化によりJA・農業生産者等の満足度向上を図るため、「北陸農林水産物の新たな発見・北陸の食材の提案」をコンセプトに、北陸3県のJA、農業生産者等を対象として商談会を開催し、農産物・加工品等の商談や情報交換の場を提供するなどビジネスマッチングの支援に取り組みました。</p>
<p>2 概要</p>	<p>開催日・場所 平成22年10月27日(水) 石川県金沢市</p> <p>参加団体 売り手側は、主に北陸3県(富山、石川、福井)の農産物、海産物、山菜およびその加工品を取り扱うJA、経済連、全農(子会社含む)、農業生産者、農業法人、JF(漁協)、森林組合等、計39団体の皆様にご参加いただきました。買い手側は、主に首都圏・東海・関西地区および地元の小売、流通、食品加工等、計13団体の皆様にご参加いただきました。</p> <p>商談形式 売り手側と買い手側に対して、「事前に商談の意向や関心のある出品物を確認させていただき、双方のニーズが合致すれば当日に具体的な商談を行う事前マッチング方式」により実施いたしました。また、売り手側9団体が買い手に対して商品等のPRを行う「プレゼンテーションタイム」や、参加者が自由に商談を行うオープン面談の時間も設けて相互交流を深めていただきました。</p>
<p>3 成果 (効果)</p>	<p>本商談会は、JFや森林組合の方にもご参加いただくなど系統組織らしい商談会となったほか、生産現場に近い、地方開催としたことで、消費地の買い手の皆様には北陸の農林水産物の新たな発見を、地元の売り手の皆様にはより深い商談を行っていただくことができました。商談数は計81件、うち商談成立(または商談継続)は計29件となりました。また、行政・系統関係者の皆様にも視察のため多数ご来場いただきました。</p>
<p>4 今後の 予定(課題)</p>	<p>JA、農業生産者等の方々のニーズを踏まえ、平成23年度も、より一層参加者の満足度向上を目指した商談会の開催を予定しています。</p> <p>こうした取り組みをはじめとして、引き続き、JA、農業生産者等の6次産業化や農商工連携の取り組みを支援してまいります。</p>